

9月25日(土) 名古屋会場

アパホテル名古屋 錦
4階「旭」

場所: 愛知県名古屋市中区錦3-15
TEL: 052-953-5111(大代表)

テーマ : 大学を支える卒業生

開催の狙い

少子化による大学の危機が叫ばれて久しいが、全入時代を迎えたといわれながらも、私立大学の定員割れは40%を超え、4年制私立大学を運営する学校法人の44.3%に当たる235法人が赤字決算(2008年度)であった。悪化し続ける私学の経営環境から脱却して活路をいかに見出すかは、すべての大学にとっての大きな課題である。

大学を取り巻くステークホルダーのうち、学生・教職員の次に身近な存在が校友(同窓)である。卒業生であるだけでなく、時には在学生の父母として、課外活動のOB・OGとして、大学の諸事業を直接・間接に、しかも継続的に支援する存在である。ここにリンクすることが大学改革を進めるうえで重要な戦略の一つになっているといった意味で、校友行政がようやく認知され始めている。

同窓会というものが「(同窓にとって)旧交を温め親睦を深めるもの」から、さらには「(大学にとって)意義を見いだせるもの」であることに気づき、多くの大学が卒業生に任せたい同窓会運営から大学の機関として明確な位置づけとし、校友課をはじめとして経営サイドの部局を中心に校友とのネットワークづくりをめざしている。また、財政基盤の強化の視点から周年事業だけでなく恒常的な募金活動として校友のチカラへの期待を募らせる。

しかし、ここに大学のあり方が問われる。「ネットワークの構築」「募金活動」を試みたときに、成否のカギを握るのは大学そのものである。「建学の精神と大学としてのミッション」を明確に示し、様々な施策を実践していくことが校友へのアプローチの早道である。大学改革、教育改革や組織改善などが実はそのための先行投資となるわけで、校友は大学の有力な構成員であり、大学を支える大きな力であり、建学の精神の継承者であるとの共通認識をもって教育に当たらねばならない。

それには校友担当部署だけの取り組みでは限界がある。今回のフォーラムでは、満足度の高い教育を行い、在学中から生涯の繋がりを育みたいという認識をもって全学を上げて取り組むことが校友行政であることを確認したい。

キーワード : ネットワーク構築 募金活動 教育力

プログラム

受付開始(12:30~) プログラム開始(13:00~)	(敬称略)
1. シンポジウム(13:00~17:00)	
(1) 基調講演(13:05~14:00)	
谷 沢 健 — 早稲田大学2009年稲門祭実行委員長 プロ野球中日ドラゴンズ元選手・野球解説者	
(2) 事例発表(14:10~15:40)	
樋 口 裕 嗣 愛知大学校友課長 宮 脇 貢 関西学院大学校友課長 栗 生 賢一郎 慶應義塾塾員センター課長	
コーヒーブレイク	
(3) ディスカッション(16:00~17:00)	
樋 口 裕 嗣 愛知大学校友課長 宮 脇 貢 関西学院大学校友課長 栗 生 賢一郎 慶應義塾塾員センター課長	
(司会・コーディネーター) 今 野 孝 福岡大学商学部教授	
2. 名刺交換会(17:00~18:00)	
参加者の2名ほど事前にピックアップし感想の発表をお願いする。	

アパホテル 名古屋錦 4階「旭」

〒460-0003

愛知県名古屋市中区錦3-15-30

TEL:052-953-5111

会場までの交通アクセス



交通アクセス

地下鉄利用

東山線・名城線「栄駅」2番出口より徒歩1分
桜通線「久屋大通駅」3番出口より徒歩2分

JR利用

「名古屋駅」よりタクシーで約10分
「名古屋駅」より地下鉄東山線2駅5分「栄駅」

空港利用

中部国際空港よりタクシーで約60分
中部国際空港より名鉄線7駅「金山駅」乗換
名城線4駅「栄駅」
県営名古屋空港よりタクシーで約45分
県営名古屋空港より高速バスで「名古屋駅」約30分
「名古屋駅」より地下鉄東山線2駅5分「栄駅」